

島根県英語教育改善プラン

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標

1 各校種ごとの目標

(小学校)

①学習到達目標の整備状況

【目標及び数値指標】 設定 50%、公表 50%、達成状況の把握 50%

【2021年度達成状況】 設定 44.7%、公表 1.5%、達成状況の把握 28.4%

【分析】

訪問指導等や本調査の結果から、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動についての理解と実施については進んでいるが、学習到達目標の設定および活用についてはまだ不十分な状態である。参考資料「CAN-DO リスト形式による学習到達目標の設定と実施」の配付および研修を実施することで改善を図る。

(中学校)

①学習到達目標の整備状況

【2021年度達成状況】

設定 90.2% (一昨年度マイナス 9.8 ポイント)、公表 17.4% (一昨年度プラス 8.4 ポイント)、達成状況の把握 54.3% (一昨年度プラス 25.3 ポイント)

【分析】

達成状況の把握が大きく上昇したことは、先生方が指導と評価の一体化を意識して取り組もうとしている結果の表れであり評価できる。設定については90%という結果とはなっているが、訪問指導の様子から考えると、新学習指導要領や教科書に対応して改訂しているかという点について心配している。新学習指導要領や現在使用している教科書に応じた学習到達目標になっているかについて振り返り改善がすすむよう、研修等で伝えていく必要がある。あわせて、小中高の系統性を意識したものになるよう支援していかなければならない。

②生徒の授業における英語による言語活動の割合について

【2021年度達成状況】

半分以上 55.6% (一昨年度マイナス 20.6 ポイント)

【分析】

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策等の関連からか、大きく減少している。加えて訪問指導等における授業においては、小学校に比べて言語活動についての理解が十分にできていない実態もうかがえるので、言語活動の理解、及び言語活動を通して指導することを訪問指導等で伝えていく必要がある。

③パフォーマンステストの実施状況について

【2021年度達成状況】スピーキングテスト 4.0回 (一昨年度よりプラス 0.5 ポイント) ライティングテスト 3.3回 (一昨年度よりプラス 0.7 ポイント)

【分析】

パフォーマンステストの実施については、スピーキング、ライティングともにポイントが上がり、先生方が指導と評価の一体化を意識して取り組もうとしている結果の表れであり評価できる。今後は、パフォーマンステストの質を向上させたり、十分に指導をしたうえで実施したりしているかについて、訪問指導等で改善を図っていく必要がある。

④授業における英語担当教師の英語使用状況について

【2021年度達成状況】半分以上 60.5% (一昨年度よりマイナス 6.3 ポイント)

【分析】

一昨年度から減少している。訪問指導においては、英語で伝えるべき場面においても、日本語を使用している指導者も見られる。授業が実際のコミュニケーションの場となるように教師が積極的に英語を使って授業を進めることができるように、研修等で実際の授業から学ぶ

機会を設定したり、国研作成の動画の視聴を勧めたりすることで改善を進めていく必要がある。

⑤英語担当教師の英語力の状況について

【2021年度達成状況】 35.6%（一昨年度よりマイナス3.1ポイント）

【分析】

この結果から、多忙をきわめる現場において、自分のスキルをあげることに時間を費やすことができている現状があるのではないかと推測される。しかし、生徒の力を伸ばすために教員自身も指導に必要な英語力については習得していかなければならない。訪問指導で英語力をあげるトレーニング方法を紹介したり、資格試験の紹介をしたりするなど支援をすすめる。

⑥生徒の英語力について

【2021年度達成状況】 35.6%（一昨年度よりプラス1.5ポイント）

【分析】

本県の特徴としては、他県に比べるとCEFR A1レベルの力があるかを測るための外部検定を受けている生徒の割合が低いということがあげられる。試験会場の数、実施されている試験の種類が少なく、また地理的にアクセスが悪いことが大きな原因となっている。教員が生徒にCEFR A1レベルの力があるかを見取る方法について共通理解を促し、ベクトルを合わせていく必要がある。

（高等学校）

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定・公表及び達成状況の把握の状況について

【2021年度達成状況】

設定75.5%（一昨年度マイナス24.5ポイント）、公表61.2%（一昨年度マイナス14.3ポイント）、達成状況の把握46.9%（一昨年度マイナス8.2ポイント）

【分析】

全ての項目において一昨年度よりマイナスポイントであった。新学習指導要領の施行にあわせ、5領域（読むこと、聞くこと、話すこと〔発表〕、話すこと〔やりとり〕、書くこと）による「CAN-DOリスト」への改訂、作成を各校に進めさせるとともに、「公表」、「達成状況の把握」についても、研修と指導主事の学校訪問により推進する。
令和4年度の目標を3項目とも100%とする。

②授業における、生徒の英語による言語活動の割合について

【2021年度達成状況】

半分以上 61.5%（一昨年度プラス4.8ポイント）

【分析】

半分以上の時間で生徒が英語で言語活動を行っている割合は年々増加しているが、目標値までは到達していない。授業改善の流れを一層進めていく必要がある。
令和4年度の目標を75%とする。

③パフォーマンステストの実施状況

【2021年度達成状況】

スピーキングテスト コミュⅠ2.1回（-0.1）、コミュⅡ2.3回（+0.6）、
コミュⅢ1.0回（+0.6）、英表Ⅰ 2.0回（±0）、
英表Ⅱ 1.0回（-0.8）
ライティングテスト コミュⅠ2.7回（+0.4）、コミュⅡ2.2回（+0.8）、
コミュⅢ2.1回（+0.7）、英表Ⅰ 3.3回（-0.7）、
英表Ⅱ 3.9回（+0.7）

【分析】

パフォーマンステストの実施回数は、全体として一昨年度と比較しても確実に増えている。また、学年が上がるにつれても一昨年度に比べて回数が増えた。これは、新学習指導要領実施に向けた意識の表れと考える。令和4年度の目標も、スピーキング、ライティングとも年間3回とし、全学年・全学科での実施を目指し、有効な事例を集め共有するとともに、指導主事による学校訪問により実施を促す。

④授業における英語担当教師の英語使用状況について**【2021年度達成状況】**

半分以上 34.9% (前年度よりマイナス9.6ポイント)

【分析】

授業における英語担当教師の英語使用状況は改善されつつあったが、今回の調査では、一昨年度に比べマイナスである。次の⑤の結果が改善されていることを踏まえると、より高い数字が出て不思議ではない。令和4年度の目標を75%とし、英語教員の指導力向上のための研修や、外国語指導助手を活用して英語使用の状況をさらに高めていく。

⑤英語担当教師の英語力の状況について**【2021年度達成状況】**

70.3% (一昨年度よりプラス4.8ポイント)

【分析】

英語担当教師の英語力の状況は徐々に改善されてきており、教員採用試験においてCEFR B2以上の外部検定資格を有する者が選考時の考慮事項となっていることへの成果が出始めているものと考えられる。新規採用者以外の英語担当教師には、引き続き外部検定を受検することを促し、主体的に自己研修をする機運醸成一層高めていくことが必要である。令和4年度の目標も引き続き75%とする。

⑥生徒の英語力について**【2021年度達成状況】**

49.6% (一昨年度よりプラス4.5ポイント)

【分析】

資格を有している生徒の割合が増加し続けている。大学入学試験における外部検定試験の利用大学が増え、その利用のために生徒が受験し続けているという実態がうかがえる。全高校において、外部検定試験を生徒の学力のアセスメントとして活用することを奨励し、英語の4技能を総合的に伸ばす指導が進むように教員の指導力向上に努める。令和4年度の目標を60%とする。

2 一定の英語力を有する小学校の新規採用**【2021年度】**

○教員採用試験の小学校教諭の募集区分に「英語」を設け、小学校で英語教育のリーダー的役割を担う教員を採用する。

<要件>

- ・小学校及び中学校「英語」の普通免許状を所有していること

○教員採用試験の小学校受験者にあたって、下記の要件を満たす者については、選考にあたって加点することとして、一定の英語力を有する受験者の拡大を図る。

<要件>

- ・中学校「英語」又は高等学校「英語」の普通免許状を所有していること
- ・英検2級以上、TOEFLiBT42点以上、TOEIC550点以上のいずれかを取得していること

【2022年度】

○より専門性のある小学校教員を採用するために、上記の考慮事項（加点）の見直しを検討中である。

(2) 目標を達成するための取組**1. 施策の全体像**

目標を達成するために、①教員の資質向上のための研修の実施、②小中高の連携の推進、③指導主事による訪問指導、④参考資料の配付 の4つの取組を行う。

①では、新学習指導要領に基づく指導をする上で各校種において必要な事柄について研修を実施し、個々の教員の指導力の向上を図る。

②の小中高の連携は、新学習指導要領に基づく学びをした児童生徒が年々上の学校へ進学してくる中、小中高の見通しをもった指導ができるよう、同一地区の小中高を研修協力校に指定し、互いに連携を促進するモデルを作る。

③では、県教育委員会や市町村教育委員会の指導主事等が各校を訪問しながら、新学習指導要領で求められる指導について理解を進めるとともに、学校現場が抱える課題を把握し、県全体での施策に反映させる。

④では、県教育委員会で作成した「指導と評価の一体化に係る参考資料」や、「研究協力校で実施した授業についての学習指導案」をホームページで公表し、教員の支援をすすめる。

2. 具体的な計画**①教員の資質向上のための研修**○ **【研修名】小中学校外国語教育講座**

【研修対象者】 小学校・中学校・義務教育学校及び特別支援学校（小学部または中学部）の英語担当教員

【研修目的・内容】

小学校・中学校を貫く外国語の指導に対する理解を深め、小中連携を軸に教科指導力の向上を図る。「指導と評価の一体化」を図る授業を目指し、学年ごとの学習到達目標の設定とバックワードデザインの単元、授業づくりについて、講義・演習・協議を行う。

【受講予定者数】 60名程度

○ **【研修名】新学習指導要領実施のための高等学校英語科授業改善研修**

【研修対象者】 高等学校英語担当教員（3年間悉皆）

【研修目的・内容】

令和4年度からの新学習指導要領の実施にあわせ、ICTを活用した授業改善と指導と評価の一体化のための学習評価の改善を図る。

【受講予定者数】 80名

○ **【研修名】外国語指導助手の授業力等向上研修**

【研修対象者】 JETプログラム参加の外国語指導助手、小・中・高等学校・義務教育学校・特別支援学校英語担当教員

【研修目的・内容】 ALTの指導力向上、英語担当教員のALTと協働した授業設計力向上、および日本人英語教員の英語運用力の向上を目指し、オンラインで実施する。

【受講予定者数】 小学校教員10名、中学校教員20名、高等学校・特別支援学校20名

【その他】 外部機関から講師を招聘予定。

②小中高の連携の推進○ **【研修名】小・中・高の連続性と系統性をもった英語指導力向上研修**

【研修対象者】 小・中・高等学校・義務教育学校・特別支援学校英語担当教員

【研修目的・内容】

同一地域の小学校、中学校、高等学校を研究協力校とし、各校種での研究授業や外部講師の研修会等をとおして、小・中・高の連続性と系統性をもった学習指導のあり方について

研究・検証を行い、英語担当教員の指導力の向上と、児童生徒の英語力の向上につなげる。
さらに、その研究・検証の内容を、各同一地域におけるその学習指導の一つの指針となるように、県内への普及を図る。

【受講予定者数】 小学校 30 名、中学校 30 名、高等学校 30 名

④参考資料の配付（掲載）

○「CAN-DO リスト形式による学習到達目標の設定と実施」（小学校外国語）

採択されている各教科書に応じた参考資料、指導と評価の一体化に係る説明動画

○学習評価ガイド

小学校外国語、中学校外国語、高等学校外国語

○学習指導案

研究協力校による公開授業、リーダー教員による公開授業

(3) 実施する体制の概要



